

## 太陽光発電が倍増

風力、バイオマス横ばい

県は、2013年度末時点の再生可能エネルギー導入状況をまとめた。出力は、国が12年度に導入した「固定価格買い取り制度（FIT）」を背景に、太陽光発電が前年度に比べほぼ倍増した一方、風力発電やバイオマス発電などは横ばいで、全体では22%増の約22万9千誌となった。

太陽光発電は、大田市内の建設会社が設置した県内最大級の約2千誌のメガソーラーが稼働を始めるなどしたため、93%増の約8万7千誌となった。計画から稼働まで数年かかる風力発電は、13年度は新規稼働箇所はなく、ほぼ横ばいの約12万8300誌、バイオマス発電は5%減の約6300誌だった。ただ両発電の事業計画は各地で進んでおり、15年度以降に出力が増える見通し。このほか、出力1千誌以下の水力発電は3%減の約7300誌だった。電気やハイブリッドなど

のクリーンエネルギー自動車は、価格低下や、エコカー減税などの支援を追い風に拡大。37%増の約2万1千台となった。

県地域政策課の奈良省吾調整監は「太陽光発電はこれから稼働する発電所も多い。14年度も出力は伸びそうだ」と予測した。

11年度に2.6%だった、県内のエネルギー消費量に対する再生可能エネルギーの生産量の割合は今後、算出する。